

# ものづくり展見学報告書

実習工場班 内野拓

## 1. はじめに

2007/1/16～2/18の期間にわたり、ものづくり展が国立科学博物館にて開催され、2/15に見学を行った。その内容について報告する。

## 2. 概要

ものづくり展は、鑄造・鍛造・金型・プレス・熱処理といった素形材産業が重要な役割を果たしてきたこと、また最先端の技術を支える役割を果たしていくことへの理解を目的としている。

## 3. 内容

会場は二つに分かれ、第一会場では、タタラ製鉄・宮大工・ロボット・鍛造・鑄造・熱処理・プレスなどが展示されていた。一方、第二会場では最先端の加工技術、プレス・射出成型・微細加工・自動車の部品などが展示されていた。

第二会場の近くでは常設展示として日本の技術の進歩に関する展示が行われており、そちらも見学した。

## 4. 所感

### ・第一会場

銅鋳石と鉄鋳石の展示に続いて床尻銅とノ口の展示がなされていた。製鉄精銅初期の様子がわかるものだった。

続いて唐招提寺の斗栱の展示がなされていた。やり鉋・鉦（チョウナ）などの大工道具の展示もあり、やり鉋の加工実例もあった。

鑄造のスペースではVプロセスの展示がなされていた。Vプロセスとは真空を使って砂型を作る方法である。それを使った製品と実際に簡単な砂型を作る装置が置かれていた。また、発泡スチロールを使った型もあった。

ほかに教育用ロボットやペットロボット、焼入れの違いによる音の響きを表した鉄琴の展示もあった。

### ・第二会場

第二会場は最先端の加工技術に関する展示だった。主に鑄造・プレスに関する展示がメインで、変わったものでは五右衛門風呂の鑄造品などがあった。

こちらのブースは余り広くなかったのが少々残念。

### ・常設展示

第二会場の先に日本の技術の進歩を展示している場所があった。蒔絵などの伝統技術から、測量、鍼灸、本草の江戸時代までの日本の技術の流れ、明治に入ってからが目覚ましい技術の進歩に関する展示があった。メートル・グラム原器があるのはともかく、尺貫原器があるのは意外だった。

また、ゼロ戦の実物が置いてあったのには驚かされた。ほかにも、テレビ開発・計算機・日本の宇宙開発などに関する展示がされていた。第一第二会場よりもこちらの常設展示のほうが面白く感じた。

03/19/2007